

“音楽の国”ラトヴィアを代表する合唱団

Latvian
Radio
Choir



ラトヴィア 放送合唱団

2019
6.4火
フィリアホール
(横浜市青葉区民文化センター)
19:00開演(18:30開場)

Tue 4th June 2019, 7:00p.m. at Philia Hall

全席指定 ¥5,000 学生 ¥3,000

●ホールメンバーズ先行予約受付期間

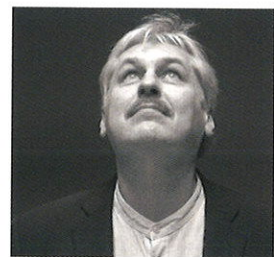
2019年3月10日(日) 11:00~3月13日(水) 18:00

※Web・FAX・郵送のみ受付

●一般発売

2019年4月7日(日) 11:00

※発売日は電話・Webのみ受付



指揮
シグヴァルズ・
クラヴァ (音楽監督)
SIGVARDS KLAVA, conductor (musical director)

24名の精鋭が紡ぐ奇跡のアンサンブル 比類なきマーラー、感涙必至!



マーラー & スカン
ジナビア
音楽

J.S.Bach/K.Nystedt : Immortal Bach

E.Esenvalds : Stars

G.Mahler/C.Gottwald : Die Zwei Blaue Augen

E.Esenvalds : A Drop in the Ocean

P.Nergård : Wilgen-Lied from Wie ein Kind

G.Mahler/C.Gottwald : Ich bin der Welt abhanden gekommen

A.Hillborg : Muo:aa:yly:oum

G.Mahler/G.Pesson : Adagietto

P.Vasks : The Tomtit's Message

J.S. バッハ/ニーステッド：不滅のバッハ (J.S. バッハ「甘き死よ来たれ BWV478」による)

エセンヴァルズ：星

マーラー/ゴットヴァルト：恋人の青い目 (「さすらう若人の歌」より)

エセンヴァルズ：大海の一滴

ノアゴー：「子供のよう」より 子守歌

マーラー/ゴットヴァルト：私はこの世に捨てられて (リュッケルト歌曲集より)

ヒルボリ：モウヤヨウム

マーラー/ペソン：アダージェット (交響曲第5番第4楽章)

ヴァスクス：シジュウカラの伝言

お申込み
お問合せ

フィリアホールチケットセンター 045-982-9999 (11:00~18:00)

www.philiahall.com (24時間オンライン予約)

青葉台東急スクエア South-1 本館5階 (東急田園都市線青葉台駅徒歩3分)
〒227-8555 横浜市青葉区青葉台 2-1-1

※曲目・出演者などやむを得ず変更させていただく場合がございます。

※未就学児の入場はお断りいたします。

※青葉台東急スクエアの駐車券のサービスはございません。

※車椅子席をご希望の方は、チケット申込の際お知らせください。

主催：ヒラサ・オフィス 共催：フィリアホール (横浜市青葉区民文化センター)

世界一流の音楽家(ヤンソンス、ネルソンス、クレメル、マイルスキー、ガランチャなど)を次々に輩出し、合唱大国としても名高いラトヴィアを代表する合唱団。

巨匠ホリガーが「世界一の合唱団」と絶賛し、2017年初来日の実現。

驚愕のテクニック、洗練されたセンス、そして完璧なまでのハーモニーが鮮烈な印象を残しました。

世界の最先端を走る合唱団。ぜひ、会場でお確かめください。

ラトヴィア放送合唱団

Latvian Radio Choir

合唱音楽の分野において唯一無二の存在となっているラトヴィア放送合唱団(LRC)は、古楽から現代作曲家の手による新しい作品まで幅広いレパートリーをもつ室内合唱団である。民族音楽から倍音、四分音まで、声をもつ様々な可能性に挑む作品の制作に作曲家たちを駆り立てる、さながら創作活動のラボのような合唱団である。

1992年以降、音楽監督兼首席指揮者であるシグヴァルズ・クラヴァとカスパルス・プトニンシュの2人の指揮者のもとで活動している。

合唱団の中において、メンバーひとりひとりが使命をもち、貢献を果たす。そうしたメンバー達の個々の声が集まり融合したものがその合唱団のサウンドになるという、これまでにない合唱の概念を、彼らはこの20年の間に作り上げてきた。

LRCは著名国際音楽イベントに数多く招かれており、これまでに、ザルツブルク音楽祭、ルツェルン音楽祭、BBCプロムス、ラジオ・フランス・モンペリエ音楽祭、ホワイト・ライト・フェスティバル(アメリカ)、サウンドストリーム(カナダ)などに参加したほか、コンサートヘボウ(アムステルダム)、エルプフィルハーモニー、ウォルト・ディズニー・コンサート・ホール、コンツェルトハウス(ベルリン)、シャンゼリゼ劇場(パリ)、リンカーン・センター(ニューヨーク)をはじめとする一流コンサートホールで公演している。

これまでにハインツ・ホリガー、リッカルド・ムーティ、リッカルド・シャイー、ラース・ウルリク・モルテンセン、ピーター・フィリップスをはじめ、多くの著名指揮者と共演している。

グラミー賞を受賞したアルヴォ・ペルトのアルバム「アダムの嘆き」(ECM)には、トヌ・カリユステの指揮で参加している。

高い評価を得た多くの録音の中でも、セルゲイ・ラフマニノフの「徹夜袴」は一流音楽雑誌グラモフォンで2013年2月のベスト・レコーディングに選ばれ、アメリカのラジオ局NPRは年間ベストアルバム25作品のひとつに挙げた。2017年夏には、ラフマニノフの「徹夜袴」でBBCプロムスへのデビューを果たし、絶賛を博した。

巨匠ハインツ・ホリガーが「世界一の合唱団」と絶賛し、彼の指名により2017年に初来日を果たす。驚嘆のテクニックと透明感溢れる美声、精緻を極めたアンサンブルは、合唱の新たな次元を提示、聴衆の度肝を抜いた。

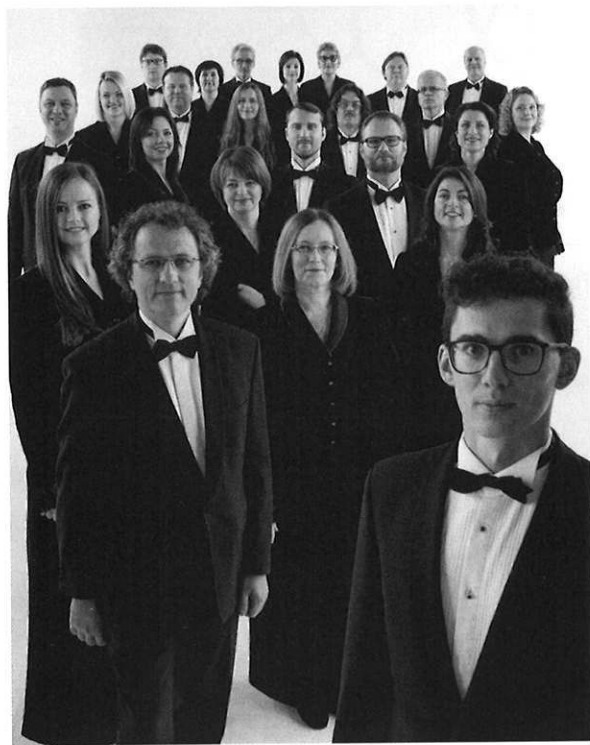
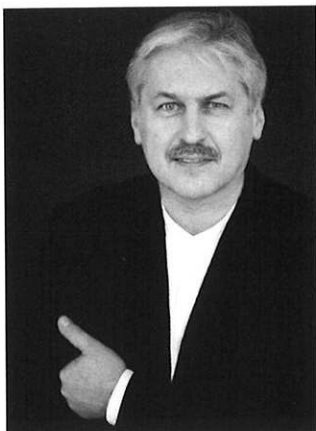
シグヴァルズ・クラヴァ(指揮)

SIGVARDIS KLĀVA, conductor

1992年よりラトヴィア放送合唱団の音楽監督を務める。クラヴァのたゆまぬ努力の結果、ラトヴィア放送合唱団はその際立つ歌声によって国際的な評価を得て、世界の一流音楽祭に招かれ、著名作曲家、指揮者との共演を重ねている。

これまでにラトヴィア・グレート・ミュージック・アワードを数回受賞。また、ラトヴィア内閣賞と三つ星勲章を授与された。

1990年よりラトヴィア歌曲音楽祭の首席指揮者を務めているほか、2000年にはヤーセパス・ヴィートリス・ラトヴィア音楽院の指揮科教授に就任した。これまでにロンドンのロイヤル・アルバート・ホール、エルプフィルハーモニー、アムステルダム・コンサートヘボウ、ベルリン・フィルハーモニーその他で指揮している。また、多くの国際的コンクールの審査、教育プロジェクトに参加している。客演指揮者として、オランダ放送合唱団、オランダ・オペラ合唱団、オランダ室内合唱団、カペッラ・アムステルダム、ベルリン RIAS 室内合唱団、ライプツィヒ MDR 放送合唱団をはじめ多くの合唱団と共演している。



全写真©Jānis Deinars

Latvian
Radio
Choir



PHILIA HALL

〒227-8555 横浜市青葉区青葉台 2-1-1
TEL:045-985-8555

青葉台東急スクエア South-1 本館 5階
(東急田園都市線青葉台駅徒歩3分)